PENTAX

67II

使用説明書

JA

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびはペンタックスカメラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。67Ⅱは、露出モードに絞り優先を備えている他、6分割測光、露出を記憶させるメモリーロック、電池の消耗がほとんどないタイム露出などの機能を備えた6×7判一眼レフカメラです。
この説明書は、別売りのAEペンタプリズムファインダー67Ⅱを取り付けた状態で説明をしております。

記号について

操作の方法	←
自動的に動きます	⇔
注目してください	◌
点滅します	☼
正しい	○
間違い	×

カメラを安全にお使いいただくために

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

🛇 は、禁止事項を表わすマークです。

⚠ は、注意を促すためのマークです。

⚠ 警告

🛇 ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。

🛇 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。

⚠ 注意

🛇 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。

🛇 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

取り扱い上の注意

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- 防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかるところでは使用できません。
- 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
- 約 60 ℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- レンズキャップを外した状態でカメラを三脚などに取り付けたまま放置しないでください。太陽光によりカメラ内部を傷めることがあります。

- レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- 高性能を保つため、1～2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- カメラの使用温度範囲は－10℃～50℃です。ただし、－20℃でも1/1000秒や1/500秒などの高速側のシャッター速度に多少誤差を生じる以外は、問題なく使用できます。低温でお使いになるときは、事前に点検をし、新品電池の使用をお勧めします。
- カメラの中やフィルムバックにゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などが付かないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。

目　次

PENTAX 67II

目　次

PENTAX 67II

IV その他について

各部の名称

前面上部

AEペンタプリズムファインダー67Ⅱ［20ページ］
測光方式切り替えレバー［35、54、55ページ］
露出補正ダイヤルロック解除ボタン［53ページ］
フィルム感度レバー［23ページ］
露出補正ダイヤル［53ページ］
シャッターダイヤル［46、48、51ページ］
巻き上げレバー［27、40ページ］
シャッターダイヤルロック解除ボタン［34、49ページ］
表示パネル［7ページ］
吊り金具［12ページ］
ファインダー取り外しボタン［21ページ］
多重露出レバー［44ページ］
シャッターボタン［19ページ］
レリーズネジ穴［52ページ］
電源スイッチ［15ページ］
ミラーアップレバー［64ページ］
タイム露出レバー［65ページ］
レンズマウント指標［17ページ］

背面下部

電池ぶた［13ページ］
アクセサリーガイドピン
三脚ネジ穴
スプール着脱レバー［25ページ］
レンズ取り外しレバー［18ページ］
5Pシンクロソケット［57ページ］
メモホルダー［28ページ］
オートストロボ連動接点［58ページ］
フィルム情報窓［24ページ］
Xシンクロソケット［61ページ］
メモリーロックボタン［56ページ］
裏ぶた開放レバー［24ページ］
逆入射光防止レバー［43ページ］
裏ぶた
フィルム感度設定ボタン［23ページ］
視度調整ダイヤル［32ページ］

表示について

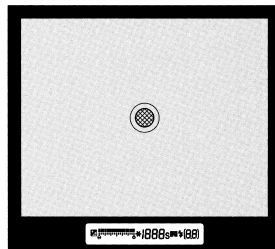
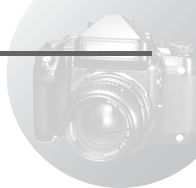
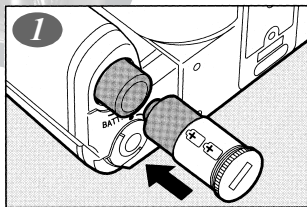
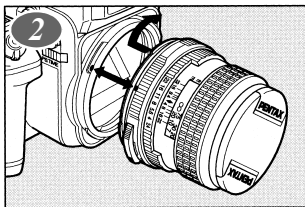
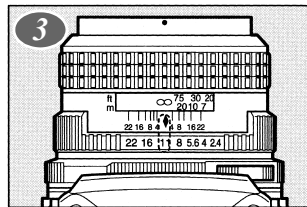
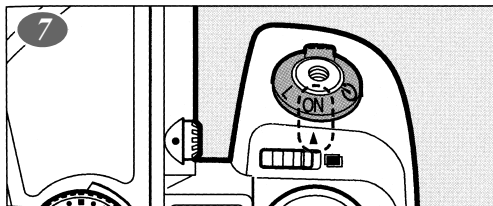
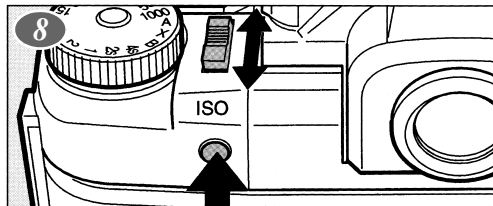
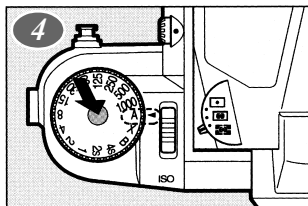
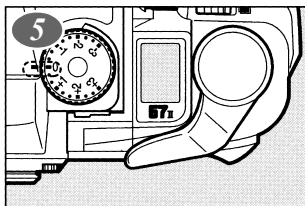
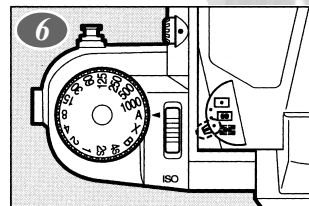
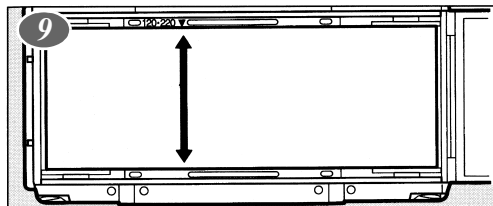
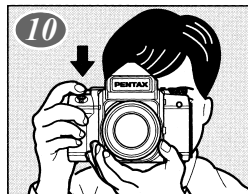
表示パネルおよびファインダー内には以下の情報が表示されます。

表示パネル

ISO
8888
FILM
8.8

- 8.8 ：フィルム枚数［28ページ］
- 8888 ：フィルム感度値［23ページ］
- ISO ：フィルム感度［23ページ］
- ：電池消耗［16ページ］
- FILM ：フィルム表示［28ページ］
- ：フィルム巻き上げ勧告［41ページ］
- ：ストロボ情報［57ページ］

ファインダー内

※プリント時に画面周辺の物がカットされることがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

- 1888s ：シャッター速度［47、50ページ］
- (8.8) ：フィルム枚数［29ページ］
- ：ストロボ情報［57ページ］
- ：露出補正［53ページ］
- ✱ ：メモリーロック［56ページ］
- ：バーグラフ［50、53ページ］
- ：測光モード［35、54、55ページ］
- ：スポット測光範囲円［55ページ］
- ：マイクロプリズム［38ページ］

とにかく撮影してみたい方のために

電池を入れてください
電池ぶたを外しCR123A電池2本を入れます。[13ページ]

レンズを取り付けてください
レンズとカメラのマウント指標[赤点]を合わせてはめ込み、右に回してロックします。[17ページ]

絞り値を合わせてください
レンズの絞りを使いたい絞り値に合わせます。[34ページ]

電源を入れます
電源スイッチを ON 位置にします。[15ページ]

フィルム感度を合わせてください
フィルム感度レバーとフィルム感度設定ボタンでフィルム感度を合わせます。[23ページ]

シャッターダイヤルを A 位置にしてください
図のボタンを押しながら回します。これで絞り優先自動露出になります。[34ページ]

露出補正値を 0 にします
露出補正ダイヤルを 0 位置にします。[53ページ]

測光方式を分割測光にします
測光方式切り替えレバーを ◙ 位置にします。[35ページ]

フィルムを入れてください
裏ぶたを開け、フィルムを正しくカメラにセットします。[24ページ]

ピントを合わせて撮影してください
シャッターボタンを静かに押して撮影します。[38ページ]

こんな写真を撮るには？

ストロボ関係

	ページ
●暗い所や室内で写真を撮りたい	57
●夜景をバックに人物を撮影したい	62

露出［明るさ］関係

	ページ
●カメラ任せでなく明るさを自由に変えて写真を撮りたい	48, 53
●逆光の人物の顔を明るく写したい	53
●特定の狭い部分の明るさだけを測りたい	55
●露出をカメラに一時的に記憶させたい	56

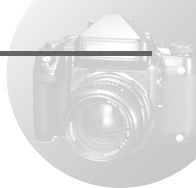
人物撮影関係

	ページ
●自分自身も写真に写りたい	42
●逆光の人物の顔を明るく写したい	53
●夜景をバックに人物を撮影したい	62

風景撮影関係

	ページ
●夜景を撮りたい	51
●夜景をバックに人物を撮影したい	62

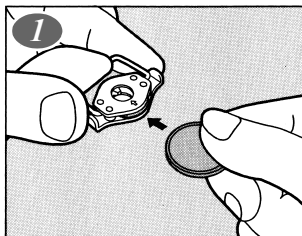
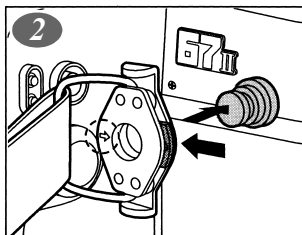
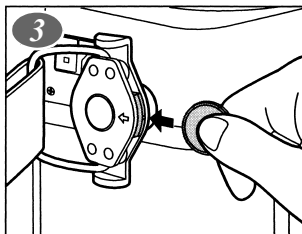
その他

	ページ
●同じコマに重ねて写真を撮りたい	44
●撮影時のミラーショックを少なくしたい	62

説明書の構成について

説明書を効果的にご使用いただくために、次のような構成になっています。

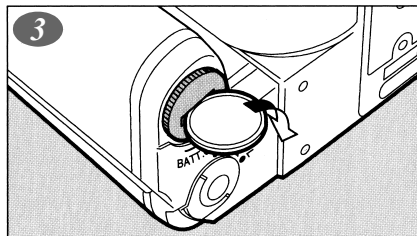
● とにかく撮影をしてみたい方は「カメラの準備と基本操作」と「基本的な使い方［撮影］」をお読みください。最小限の操作を知っていただくだけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。

ストラップを取り付けます

● ストラップの長さは、留め具で調整してください。
● ストラップの取り付け後、ストラップを引っ張り確実にロックされていることを確認してください。
● ストラップにはポケットがついていますので、小物入れとしてご利用ください。

1 コインなどでファスナーのロック板を矢印方向に押すとロックが解除されます。

2 ファスナーの点線で示す矢印部分を手前に見えるようにして、穴を吊り金具に入れ、ロック板を元に戻すとロックされます。

3 取り外すときは、手順1と同じようにロック板を矢印方向に押してください。

電池を入れます

1 電池ぶたをコインなどを利用して、矢印方向に回して外します。

2 CR123A相当の電池2本を+側を先にしてカメラに入れます。

3 電池ぶたをコインなどを利用して矢印方向に回してロックします。

- 電源を入れても表示パネルの表示が出ないときは、電池ぶたが斜めに入っていないかを確認してください。
- 巻き上げ途中では、電池を交換しないでください。フィルム枚数表示が現在の表示から2コマ分進み、撮影できるコマ数も1コマ分減ります。
- 電池が入っていないときは、フィルムの巻き上げを行わないでください。コマ間隔が広がったり、撮影できる枚数が減ることがあります。

–つづく–

–つづき–

- このカメラは電池がないと動きませんので、操作をする前には、必ず決められたリチウム電池を2個入れてください。サンプルの電池が添付されていますので、この電池をお使いください。
- 電池を入れ替えてもフィルム感度やフィルム枚数はそのまま記憶されています。
- 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。
- 電池を交換するときは、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で行なってください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

［20℃］新品電池で当社試験条件による

120フィルム	約500本
220フィルム	約250本
バルブ露出時間	約13時間

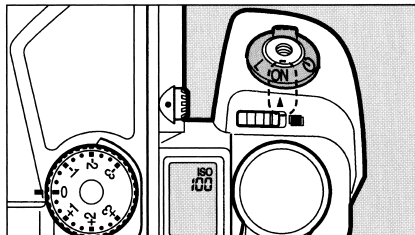
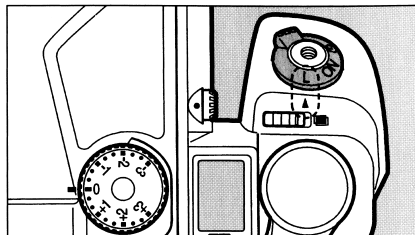
撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

［－20℃］新品電池で当社試験条件による

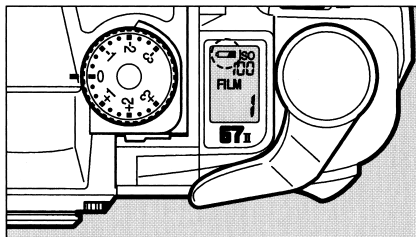
120フィルム	約250本
220フィルム	約120本
バルブ露出時間	約6時間

- 撮影可能フィルム本数は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。
- 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。
- 同梱されている電池はサンプル電池のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。

電源を入れます

● 使わないときは、必ず電源を切っておいてください。シャッターボタンが押されると電池が消耗します。

電源スイッチを ON 位置にすると電源が入ります。

電源スイッチを L 位置にすると電源が切れます。

電池が消耗した場合

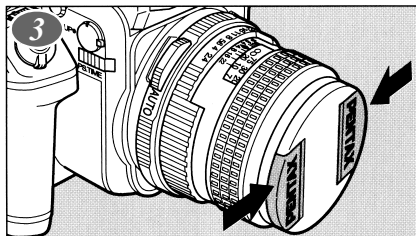
● 巻き上げ途中では、電池を交換しないでください。フィルム枚数表示が現在の表示から2コマ分進み、撮影できるコマ数も1コマ分減ります。

電池が消耗すると、図のように表示パネルに電池消耗警告 ▭ が点灯します。お早めに電池を交換してください。電池の交換は13ページをご覧ください。

●電池マーク ▭ が出たままでも、シャッターが切れれば露出に問題はありません。

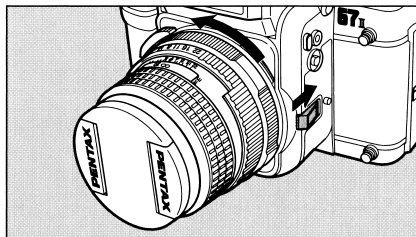
● 表示パネルの電池消耗警告 ▭ が点滅になると、ファインダー内の表示は消え、シャッターも切れなくなります。フィルムの最初や最後の部分では、巻き上げができなくなることもあります。
● 電池消耗警告 ▭ が点滅しているときは、巻き上げを行わないでください。フィルムの最後を正しく検出できなくなります。

レンズを取り付けます

1 ボディーマウントキャップを左に回して外します。

2 レンズのマウントキャップを外しカメラとレンズの赤点のマウント指標を合わせて、レンズをカメラにはめ込み、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。

3 レンズキャップは、図のように矢印部分を内側に押すと外れます。

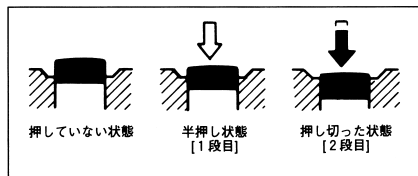
- 大型レンズ用の外爪バヨネットレンズの着脱方法については、「smc PENTAX・タクマー67レンズの使い方」の説明書をご覧ください。
- レンズ取り付け時は、18ページに示したレンズ取り外しレバーを操作しないでください。レンズの取り付けが不完全になります。
- 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。

● 外したレンズは、マウント周辺を傷付けないため、カメラに取り付く面を下にして置かないでください。

レンズを外すには

レンズを外すときは、レンズ取り外しレバーを矢印方向に押したまま、レンズを左へ回してください。

シャッターボタンの操作

- シャッターボタンは、カメラぶれを防ぐためにも、指の腹でゆっくり押してください。
- フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押すと半押しになるのか、感覚をつかんでください。
- ファインダー内表示は、シャッターボタンを半押ししてから約10秒間は指を放しても表示されたままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、表示は継続します。

押していない状態　半押し状態 [1段目]　押し切った状態 [2段目]

シャッターボタンは2段階になっています。

シャッターボタンを半押しすると［1段目まで押す］、ファインダー内の表示が表示されます。

さらにシャッターボタンを押し切る［2段目まで押す］と、シャッターが切れ撮影できます。

ファインダーについて

67Ⅱには、4種類の交換式のファインダーがあります。

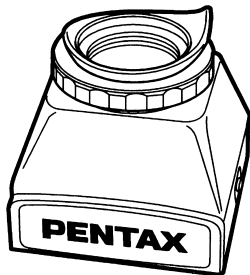
- AEペンタプリズムファインダー67Ⅱを使用すると、内臓露出計を利用した絞り優先やマニュアル露出がご使用いただけます。
- ペンタプリズムファインダー67Ⅱ、折りたたみピントフード67Ⅱ、固定ピントフード67Ⅱの代わりにそれぞれ67用のペンタプリズムファインダー、折りたたみピントフード、固定ピントフードもお使いいただけます。
- 67用のTTLペンタプリズムファインダーは取り付けができません。

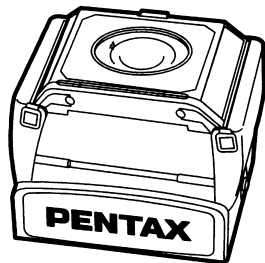
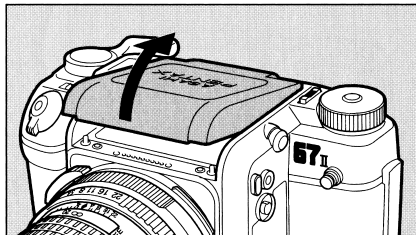
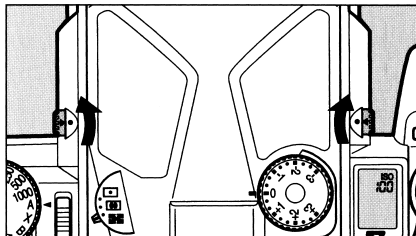
AEペンタプリズムファインダー67Ⅱ

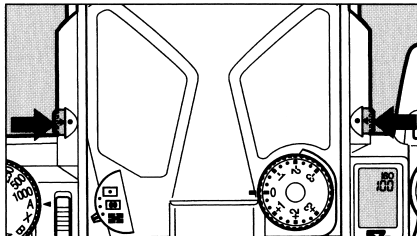
ペンタプリズムファインダー67Ⅱ

折りたたみピントフード67Ⅱ

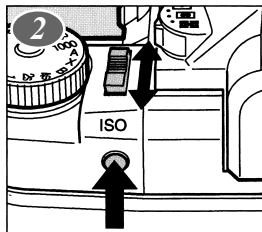
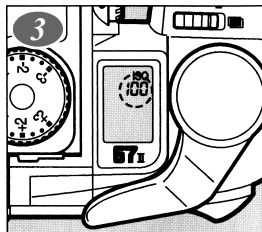
固定ピントフード67Ⅱ

図の部分のカバーを外します。

取り付け方

図のようにファインダーを上から「カチッ、カチッ」と2度音がするまで押し込んで、確実に取り付けてください。

●「AE ペンタプリズムファインダー67II」が確実に取り付けられていないと表示パネルに「PErr」が表示されることがあります。確実にセットし直してください。

外し方

2箇所のファインダー取り外しボタンを図の方向に回して、赤い指標を合わせます。

この状態でボタンを押し込みロックを解除すればファインダーは外れます。

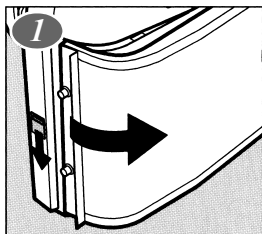
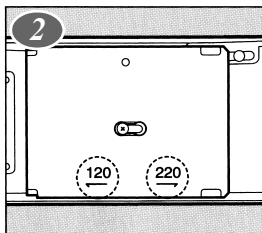
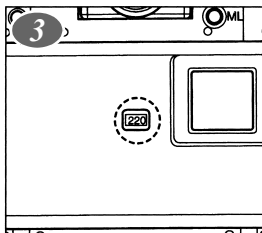
フィルム感度の設定方法

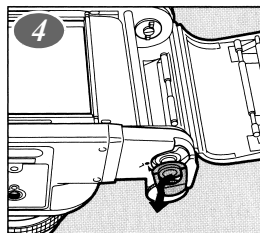
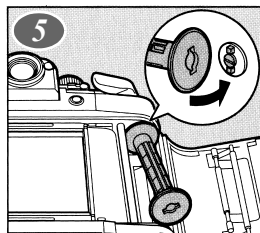
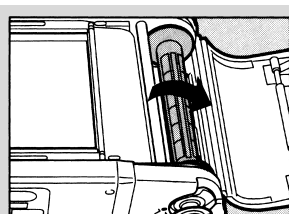
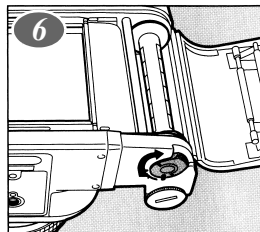
1 フィルム感度設定ボタンを押して表示パネルの ISO を点滅させます。

2 フィルム感度設定ボタンを押したまま、フィルム感度レバーを上側あるいは下側に押しつけるとフィルム感度が変化します。

3 フィルム感度レバーが上側のときは数字が大きい方に、下側のときは数字が小さいほうに変化します。

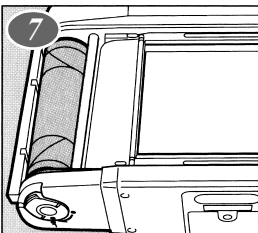
- フィルム感度レバーを押し続けると、数字は連続的に変わります。
- フィルム感度は ISO6 ～ 6400 の間で 1/3 段階毎に設定できます。
- 表示パネルのフィルム感度値と ISO 表示は電源が ON であれば常に表示されます。

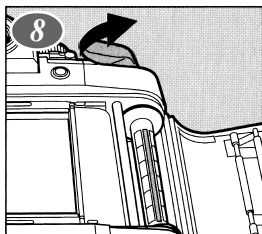
フィルムを入れます

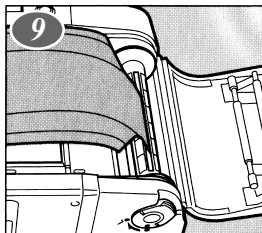
フィルムを入れる前に、忘れずにフィルム感度の設定を行ってください。23ページをご覧ください。

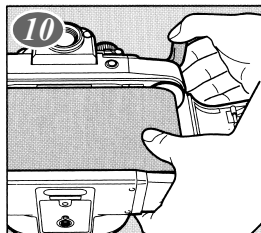
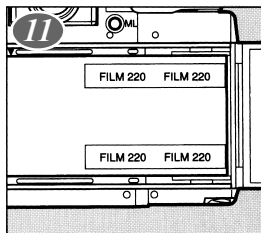
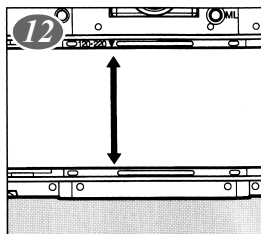
● 圧板を220に切り替えて120フィルムをセットすると巻き上げが重くなったり、フィルムの最後が検出できなくなります。また圧板を120に切り替えて220フィルムをセットするとピントにズレが生じたり、規定枚数が撮影できなくなります。

1 裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開けます。

2 圧板を120タイプのフィルムでは左方向に、220タイプでは右方向に、押し込みながら動かしてください。

3 切り替えた結果は、裏ぶたのフィルム情報窓に表示されます。

4
スプール着脱レバーを起こし、左に回してから手前に引きます。

5
空スプールを図のようにカメラの爪に合わせて入れます。

6
スプール着脱レバーを押し込み右に回して収納します。

● スプール着脱レバーが収納できないときは、スプールを図の方向に回転させてみてください。

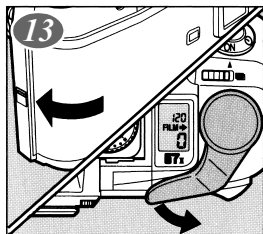
7

新しいフィルムのシールをはがし、文字の書かれている面を上にして、空スプールと同様に図の位置に入れます。

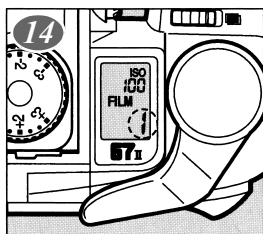
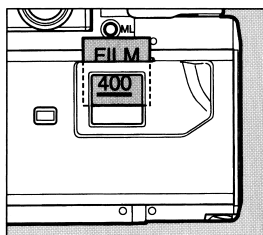
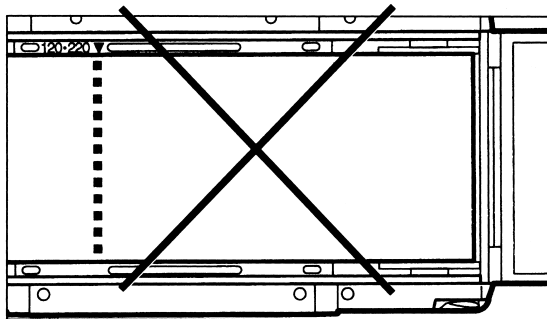
8

巻き上げレバーを回し、空スプールの溝を上側に持って来ます。

9

フィルムの先端を空スプールの溝に差し込みます。

● 電池が入っていないと、巻き上げレバーを回してもスプールは回転しません。

10 フィルムが空スプールから抜けないように指で押さえながら、巻き上げレバーで巻き上げます。

11 フィルムが空スプールにまっすぐに巻かれていることを確認してください。

12 フィルムがたるまないように押さえながら巻き上げレバーを巻き、フィルムのスタートマークとカメラの▼を合わせます。

● 巻き上げレバーを操作してもフィルムが送られないときは、一旦裏ぶたを閉じてから巻き上げ操作を2度行い、シャッターを切ってから、裏ぶたを開け、手順10から再び行ってください。

13

裏ぶたを閉じ、巻き上げを1回行うと、表示パネルには、フィルム枚数の0、フィルム種類の120あるいは220、フィルムを表わすFILMと巻き上げを勧める➡が表示されます。

14

何度か巻き上げを行い、表示パネルに1が表示されれば、フィルムのセットは完了です。

裏ぶたのメモホルダーに使用フィルムの箱のふたを切り取って入れ、フィルム種類の確認用としてご利用ください。

ご注意

27ページの手順⑫のように、フィルムのスタートマークとカメラの▼を正しく合わせてください。

220フィルムの場合、フィルムの正規のスタートマークの前に左図のような点線が出てきます。この点線はスタートマークではありません。この点線とカメラの▼を合わせてしまうと、最初の3枚分が未露光となってしまいます。

- フィルム枚数表示はファインダー内にも表示されます。
- フィルムには、直射日光が当たらないようにご注意ください。
- カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。
- 表示パネルとファインダー内のフィルム枚数表示は、撮影するごとに1つずつ進みます。表示パネルの枚数表示は電源を切っても常に表示されます。
- フィルム傷の原因になりますので、圧板は常にきれいにしておいてください。ごみや汚れが付いたときは、きれいな布で拭いてください。
- スタートマークを正しく合わせないとフィルムの最初あるいは最後のコマが正しく露光されなくなります。
- 120フィルムでは10枚、220フィルムでは21枚の撮影が可能です。
- フィルムが入っていない状態で裏ぶたを一旦開けると、巻き上げ操作を2度行わないとシャッターが切れません。
- 裏ぶたの開いた状態でシャッターを切るには、多重露出レバーを動かしたまま巻き上げを行なってください。

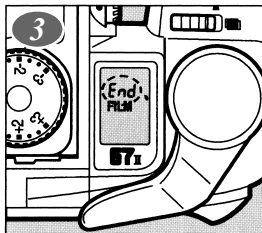
フィルムの規定枚数が終了したら

1

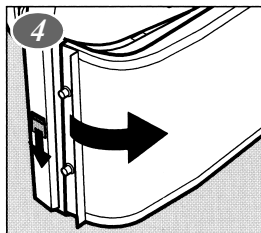
フィルムを最後まで撮り終えると、表示パネルの➡と--が点滅します。

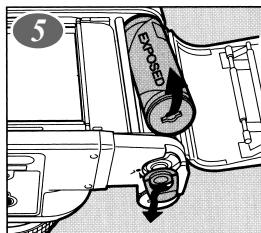
2

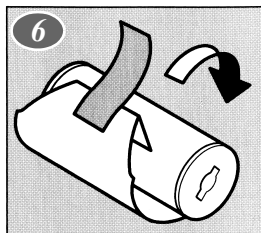
フィルムを巻き上げると、表示パネルのフィルム感度表示が消えますので、そのまま何回か巻き上げを行なってください。

3

そのまま何回か巻き上げを行い、表示パネルにEnd表示を出します。

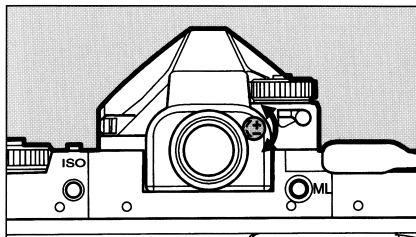
● フィルムには直射日光が当たらないようにご注意ください。

4

End 表示を確認後、裏ぶたを開けます。

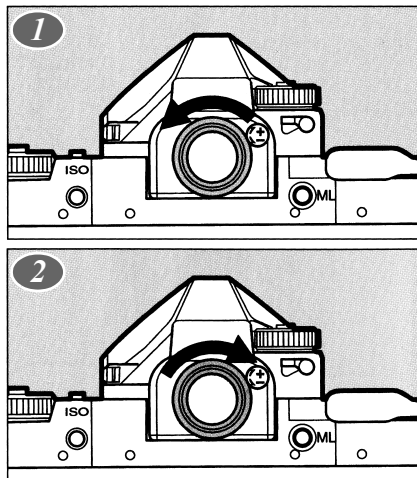
5

スプール着脱レバーを左に回しながら手前に引いてフィルムを取り出します。

6

フィルムの先端を内側に折り曲げてからフィルムに付いているシールでフィルムがたるまないように止めてください。

ファインダーの視度を調整します

- 視度の調整範囲は、$-2.5m^{-1}$～$+1.5m^{-1}$（毎メートル）です。
- 視度調整はご使用前に必ず行ってください。

カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整ダイヤルを回し、ファインダー内のマイクロプリズムの「ギザギザ」やスポット測光範囲円が最もはっきり見える位置に調整します。

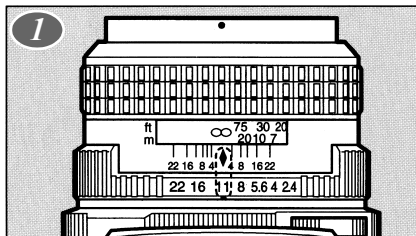
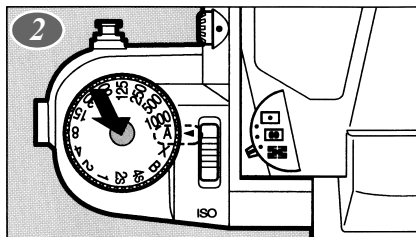
視度調整レンズの交換方法

● 別売りの視度調整レンズを利用すると、視度調整範囲を－5.5～－1.5あるいは、－0.5～＋3.5に変更できます。

1 図のゴムリングを左に回して視度調整レンズを外します。

2 交換する視度調整レンズを取り付けます。

絞り優先自動露出にします

最も簡単な露出モードで、設定した絞りに対して、カメラが自動的にシャッター速度を決めてくれますので、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

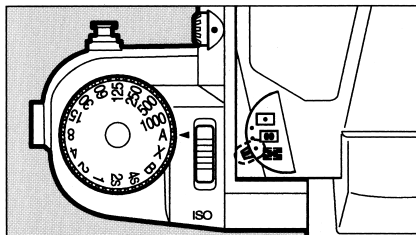
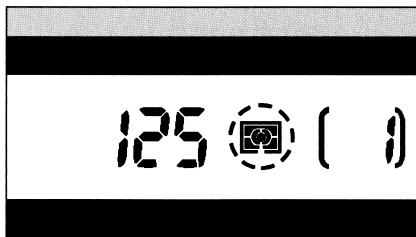
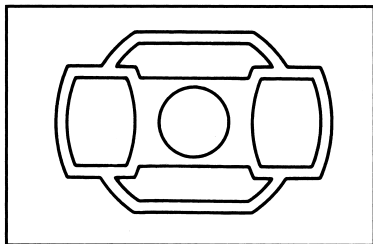
● シャッターダイヤルを Ⓐ 位置から外す場合にも、シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら回してください。

1 レンズの絞りリングで絞り値を合わせます。

2 シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら、シャッターダイヤルを Ⓐ 位置に合わせます。

● マニュアル露出については48ページをご覧ください。
● 絞り優先自動露出は、別売りの「AE ペンタプリズムファインダー 67Ⅱ」を取り付けていないと使用できません。
● シャッターダイヤルが Ⓐ 位置で、「AE ペンタプリズムファインダー 67Ⅱ」以外のファインダーを使用している場合やファインダーを取り付けていない場合、シャッター速度は1/30秒固定となります。

測光方式を分割測光にします

分割測光では、画面内を6つに分割して明るさを測っていますので、逆光など様々な条件でも最適な露出を得ることができます。

● このカメラには、分割測光以外に中央重点測光およびスポット測光があります。54、55ページをご覧ください。

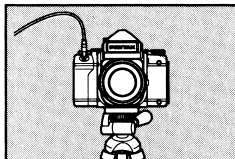
● 絞り込み測光では、分割測光を選択していても中央重点測光になります。

測光方式切り替えレバーを［分割測光マーク］位置に合わせます。

ファインダー内に［分割測光マーク］が表示されます。

6分割測光について

このカメラの分割測光では、図のように、画面内を6つに分割して明るさを測っていますので、逆光などで人物が暗くなってしまうような条件でも、どの部分にどんな明るさの物があるかをカメラが判断し、人物が暗くならないように自動的に補正を行ないます。ですから、安心して撮影を楽しんでいただけます。

カメラの構え方

● 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると効果があります。
● 望遠レンズで三脚を使用する場合は、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

横位置

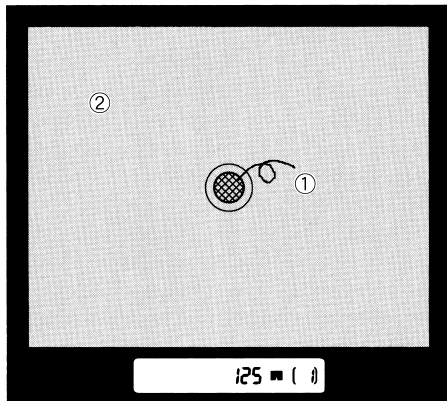
縦位置

撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

図のようにカメラを両手でしっかりと持ってください。

シャッターボタンは指の腹で静かに押します。［強く押すとカメラが動いてしまい、きれいな写真が撮れません。］

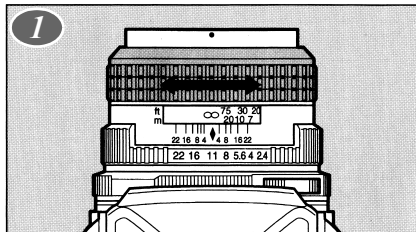
個人差はありますが、一般的には焦点距離の逆数が手持ちの限界シャッター速度とされています。
例えば、焦点距離が75mmでは1/75秒、150mmでは1/150秒などです。これ以下のシャッター速度になる場合には、なるべく三脚を使用してください。
三脚を使用する場合は、別売りの「ケーブルレリーズ」の利用をお勧めします。

ピントを合わせて撮影します

ファインダーを覗くと、下図のように見えます。①②のいずれかでピントを合わせます。

①マイクロプリズム
この部分では、ギザギザの像がすっきりした像になるように合わせます。

②マット面
この部分では、ボケている像がハッキリ見えるように合わせます。

- ファインダー内が見えにくいときは、先に視度調整をしてください。32ページをご覧ください。
- 67Ⅱ には交換用フォーカシングスクリーンも用意しております。68ページをご覧ください。

1

ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを回してピントを合わせます。

［ピントが合っている］

［ピントが合っていない］

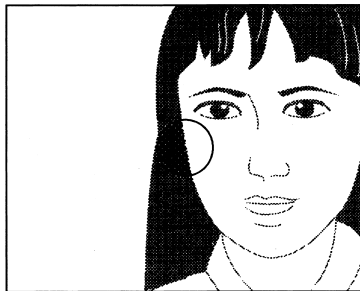
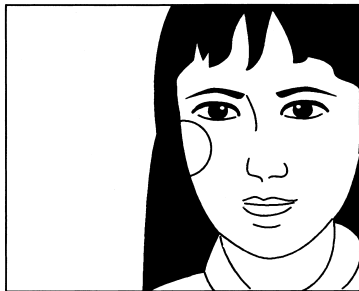
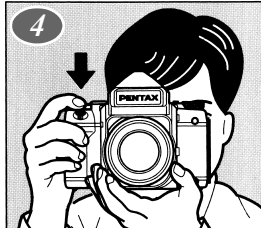
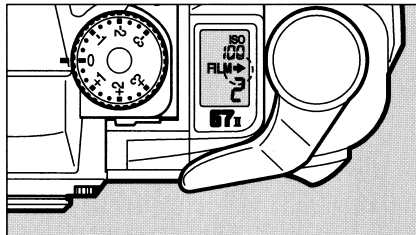
2

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、フィルム枚数と測光方式が表示されます。

3

巻き上げレバーでフィルムを巻き上げます。

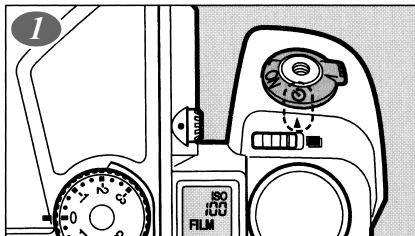
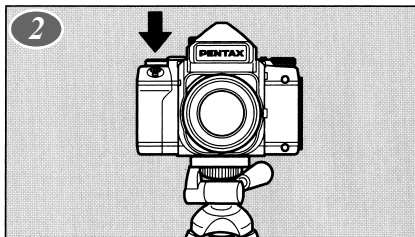
4

シャッターボタンを押し切ると撮影できます。

● シャッターボタンの半押しをしなくても、メモリーロックボタン［ML］を押すとファインダー内の表示を点灯させることができます。ケーブルレリーズ使用時などにご利用ください。ただし、絞り優先のときにメモリーロックボタンを押すと、メモリーロックが働きますので、もう一度押してメモリーロックを解除させてからご使用ください。

● ➡ 表示が出ていないときには無理に巻き上げを行わないでください。

一旦撮影を行うと、表示パネルに巻き上げをお勧めする ➡ が表示されます。

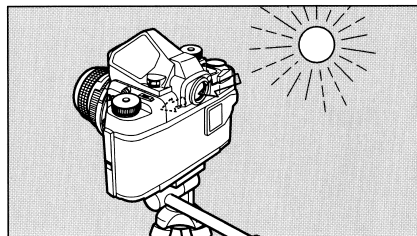
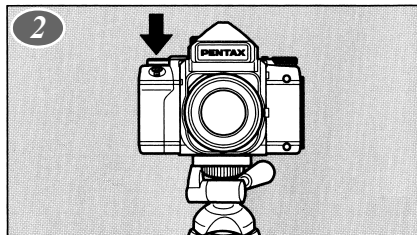
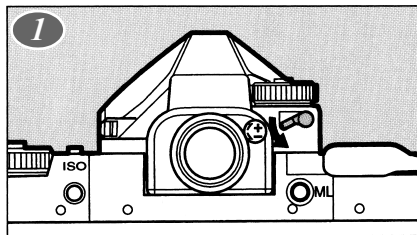
セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
シャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターが切れます。

● セルフタイマーの作動中は電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、電子音も速い断続音「ピッピッピッ」になります。

● セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源スイッチを⏲以外の位置にしてください。

1. 電源スイッチを回して⏲位置に合わせます。

2. 写したいものにピントを合わせ、シャッターボタンを押し切るとセルフタイマーが始動します。

逆入射光防止について

● 逆入射光防止レバーを下側にすると、ファインダーの中は何も見えなくなります。必要ないときは、上側にしておいてください。

1. セルフタイマー撮影などで、カメラのファインダーから目を離す前に、逆入射光防止レバーを下側に動かします。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

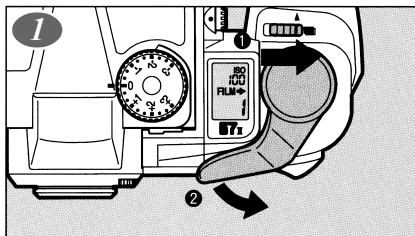
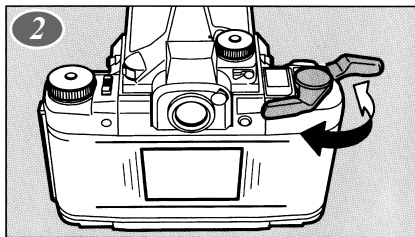
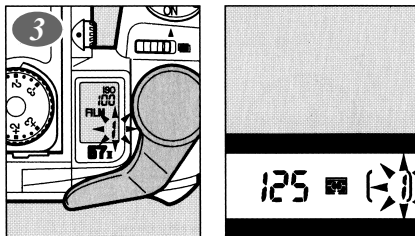
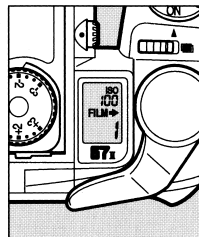
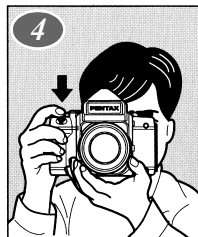
逆入射光について

セルフタイマー撮影などで、シャッターが切れるまでの間にファインダー部から目を離すと、この部分から入る光の影響で露出に誤差を生じることがあります。逆入射光防止レバーを使用することで、この影響をなくすことができます。

多重露出について

フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第でおもしろいトリック写真などを作ることができます。

- 多重露出レバーの操作は、巻き上げレバーを動かす前に必ず行ってください。コマずれを起こすことがあります。
- 多重露出では、撮影したコマにずれを生じることがあります。
- 途中まで巻き上げ操作を行えば、多重露出レバーから手を放してもだいじょうぶです。

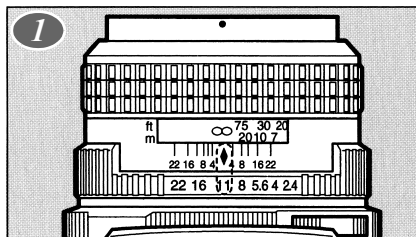
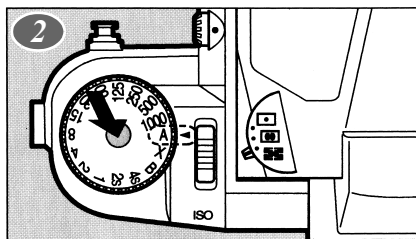
–つづく–

1 多重露出レバーを矢印方向に動かし、その後、そのまま巻き上げ操作をします。

2 この状態ではフィルムは巻き上げられませんので、前に写したコマと重なって写ります。

3 巻き上げレバーが元の位置に戻ると表示パネルとファインダー内のフィルム枚数が点滅します。

シャッターを切ると、フィルム枚数の点滅は止まり通常撮影に戻ります。

–つづき–

- 例えば3コマの多重露出の場合、2コマ目の撮影後、多重露出レバーを同様にセットしてから巻き上げを行ってください。
- 多重露出では、暗いものを背景にして、ストロボ光を当てた人物などを重ねると比較的良い結果が得られます。
- 多重露出をセット後に解除することはできません。セット後に多重露出の必要がなくなった場合は、レンズキャップをし、シャッター速度を1/1000秒、絞りを最小絞りにして、暗い所でシャッターを切ってください。
- 規定枚数の最後のコマでも通常と同じ方法で多重露出ができます。ただし、規定枚数終了時は、フィルム枚数表示の「－－」が点滅していますので、この状態で多重露出をセットすると、120フィルムでは「10」、220フィルムでは「21」の点滅に戻り、再びシャッターが切れる状態になります。必ず多重露出レバーを操作してから巻き上げを行なってください。

いろいろな露出モードを選びます

絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りに合わせると、写す物の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わります。

1 レンズの絞りリングで絞り値を合わせます。

2 シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら、シャッターダイヤルをⒶ位置に合わせます。

● シャッターダイヤルを Ⓐ 位置から外す場合にも、シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら回してください。
● 絞り優先自動露出は、別売りの「AE ペンタプリズムファインダー67Ⅱ」を取り付けていないと使用できません。

3

125 (1

1000 (1

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、フィルム枚数、測光方式が表示されます。

露出警告

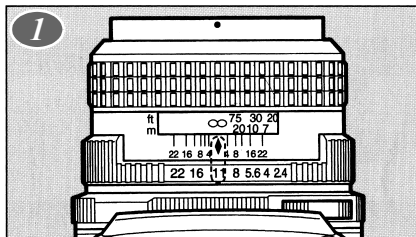
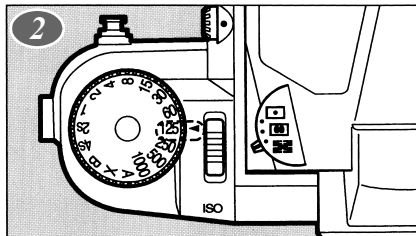
写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内のシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側［数字の大きい方］に、暗すぎるときは絞りを開放側［数字の小さい方］にして点滅が止まれば撮影できます。
なお、絞りを変えても点滅が止まらない場合は測光範囲外ですから、適正露出は得られません。明るすぎるときは、ND フィルターなどをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

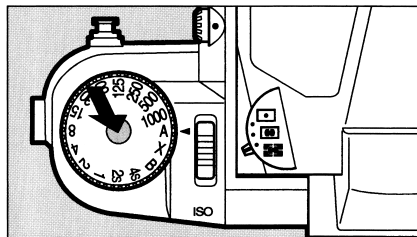
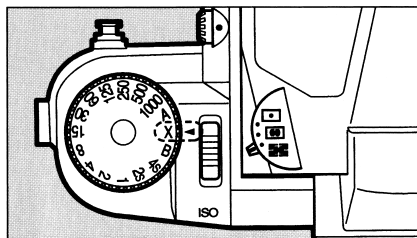
マニュアル露出の使い方

常に同じシャッター速度と絞りの組み合わせで撮影をする場合や、意図的に露出オーバー［明るい写真］や露出アンダー［暗い写真］にするときに使います。

1

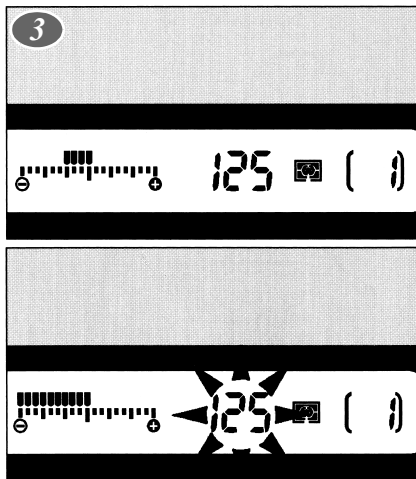
レンズの絞りリングで絞り値を合わせます。

2

シャッターダイヤルを Ⓐ 位置以外の使いたいシャッター速度に合わせます。

● シャッターダイヤルを Ⓧ 位置にしたり、Ⓧ 位置から外すときはシャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら回してください。

シャッターダイヤルを Ⓐ 位置から Ⓐ 位置以外にする場合には、シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら回してください。

ストロボ撮影で、シャッター速度を1/30秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときはシャッターダイヤルを Ⓧ（1/30秒）位置に合わせてください。

● バーグラフの[I]が[⊖]側に並んでいるときは露出不足、[⊕]側に並んでいるときは露出がオーバーです。中心にあれば適正露出です。バーグラフの[I]1個は1/3段階［1/3EV］に相当します。ただし、±3段階［±3EV］を超えた場合は、[⊖]あるいは[⊕]が点滅表示します。

● 別売りの「AEペンタプリズムファインダー67II」を取り付けていないとファインダー内のバーグラフは表示されません。

3

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、バーグラフ［図の場合は－1EV］、フィルム枚数、測光方式が表示されます。

露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎて、シャッター速度表示が点滅したときは、測光範囲外ですから、シャッター速度や絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご使用いただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

バルブの使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

1

レンズの絞りリングで絞り値を合わせます。

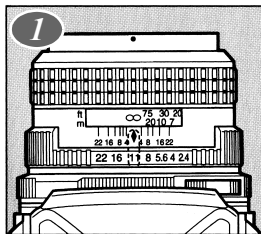
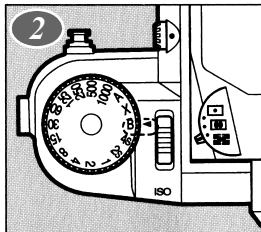
2

シャッターダイヤルをⒷ位置に合わせます。

3

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に bu が表示されます。

4

バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりとした三脚を使用し、別売りの「ケーブルレリーズ」をレリーズネジ穴にねじ込んでご利用ください。

- 「ケーブルレリーズ」でもシャッターボタンの半押しができますので、ファインダー内表示を点灯させることができます。
- 新品電池でのバルブ撮影可能時間については、14ページをご覧ください。

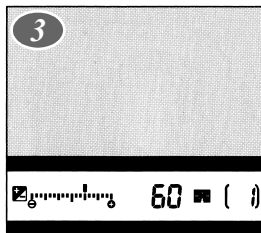
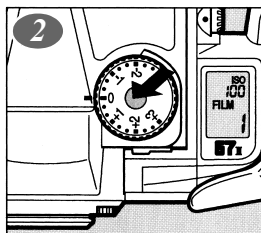
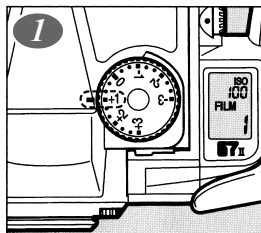
露出補正について

意図的に露出オーバー［明るい写真］や露出アンダー［暗い写真］にしたいときなどに使います。

- 露出補正はバルブでは使えません。
- 露出補正は、－3～＋3段階［EV］の範囲で1/3段階［EV］ごとに行なえます。
- バーグラフの I の移動量1つが1/3段階［EV］に相当します。
- マニュアル露出での露出補正では、ファインダー内に露出補正値を示すバーグラフは表示されず、マニュアル露出のオーバー・アンダーを示すバーグラフと ☒ が表示されます。バーグラフの I を中心に合わせれば、設定した補正値での撮影ができます。

1

露出補正ダイヤルを回して、補正値を選びます。

2

0 位置から別の位置に切り替えるときは、露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら回してください。

3

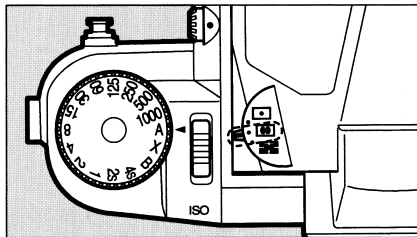
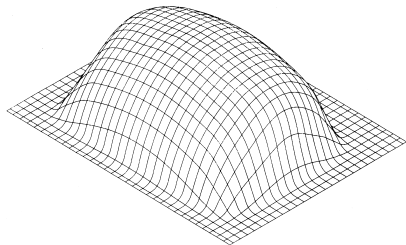
ファインダー内に補正値を示すバーグラフと ☒ が表示されます。

分割測光以外の測光モードを使ってみましょう

このカメラでは、撮影者の好みで測光モードを分割測光から中央重点測光あるいはスポット測光に切り替えることができます。

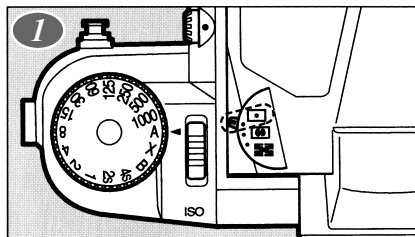
- 分割測光のようにカメラ任せで露出を決めるのではなく、経験的に補正をして明るさを決める場合などにご利用ください。

中央重点測光を使います

中央重点測光は、従来からのオーソドックスな測光方式です。

測光方式切り替えレバーを[◙]位置に合わせます。ファインダー内に[◙]が表示されます。

測光分布は、図のようになっており、高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高いことを表わしています。

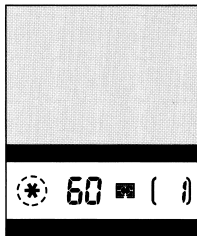
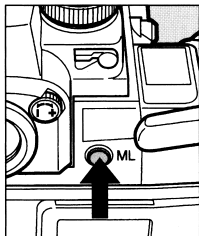
スポット測光を使います

スポット測光は、限られた狭い範囲だけの明るさを測りたいときに使います。

測光方式切り替えレバーを⊡位置に合わせます。ファインダー内に⊡が表示されます。

図のように、中央の限られた狭い範囲だけの明るさを測ります。

● 中央部とそれ以外の周辺部との明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまいます。

メモリーロック撮影について

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。被写体が非常に小さく適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

メモリーロックボタンⓂⓁを押すとその時点の露出が記憶され、ファインダー内に✱が表示されます。

- メモリーロックボタンⓂⓁを押してから約20秒間はタイマーが働き、ボタンから指を放しても露出が記憶されています。
- メモリーロック中にシャッターボタンを半押ししたままにすると、メモリーロックボタンⓂⓁから指を放してもメモリーロックはそのまま継続します。
- メモリーロック中にもう一度メモリーロックボタンⓂⓁを押すと解除できます。
- マニュアル露出ではメモリーロックはできません。
- 撮影後メモリーロックは解除されます。

外付けストロボの使い方

TTLオートで使います

AF540FGZ・AF360FGZ・AF500FTZ・AF330FTZ・AF400FTZ・AF240FT・AF280T・AF200Tの場合

* 上記の各ストロボをご使用いただくためには、別売りのホットシューグリップ67IIが必要です。

1. カメラにホットシューグリップ67IIを取り付けます。
2. 上部の黒いカバー（ホットシューカバー Fc）を取り外します。
3. ストロボを取り付けます。
4. コードを接続し撮影します。

- カメラへのホットシューグリップ 67II の取り付け方については、ホットシューグリップ67IIの説明書をご覧ください。
- 絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、ストロボの充電完了時シャッター速度が1/30秒固定となります。
- ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内と表示パネルの⚡も点灯します。
- 絞り優先で充電が完了すると、自動的にマニュアル露出に切り替わり、ファインダー内にバーグラフが表示されます。バーグラフは背景の露出値を示しています。バーグラフについては50ページをご覧ください。
- 外付けストロボの詳細については、外付けストロボの説明書をご覧ください。
- ストロボの電源はコードを接続してから入れてください。

AF400Tの場合

* AF400Tをご使用いただくためには、別売りの67AF400Tブラケット及び、4Pシンクロコード Aが必要です。

1. AF400Tブラケット67Ⅱを利用してAF400Tをカメラに取り付けます。
2. 4PシンクロコードAで接続し撮影します。

- カメラへのAF400Tブラケット67Ⅱの取り付け方については、AF400Tブラケット67Ⅱの説明書をご覧ください。
- 絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、ストロボの充電完了時シャッター速度は1/30秒固定となります。
- ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内と表示パネルの⚡も点灯します。
- 絞り優先で充電が完了すると、自動的にマニュアル露出に切り替わり、ファインダー内にバーグラフが表示されます。バーグラフは背景の露出値を示しています。バーグラフについては50ページをご覧ください。
- 外付けストロボの詳細については、外付けストロボの説明書をご覧ください。
- AF200T、AF280Tでは、別売りのホットシューグリップと組み合わせて、AF400Tと同じ使い方ができます。詳しくは、AF400Tブラケット67Ⅱの説明書をご覧ください。
- ストロボの電源はコードを接続してから入れてください。

露出補正について

TTLオートストロボ撮影で露出補正を行なうと、ストロボの光量だけが変化し、バーグラフのⅠを中心に合わせせると、背景とストロボ光の両方が補正されます。

外光オートで使います

AF200T、AF280T、AF400Tの場合

外光オート［赤・緑・黄位置］で使用する場合、絞りを下表の値に合わせてください。絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、充電が完了すると、シャッター速度は1/30秒固定になります。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄			F11

［ISO 100の場合］

外付けストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、61ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、TYPE AとTYPE BあるいはTYPE CとTYPE Dの組み合わせでお使いください。

AF540FGZ、AF500FTZ、AF330FTZ、AF360FGZ

●絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、充電完了後シャッター速度が1/30秒（後幕シンクロ、光量比制御シンクロでは1/15秒）に固定されます。

●このカメラでは、オートズーム機構は使用できませんので、マニュアルズームで焦点距離をセットしてお使いください。

●AF500FTZ、AF360FGZとの組み合わせでは、スレーブ機能［コードレス］がご利用できます。

●AF500FTZとの組み合わせでは、マルチ発光モードがご利用できます。

●充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

●絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、充電完了後シャッター速度が1/30秒に固定されます。

●充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF200T、AF280T、AF400T

●TTLオートの他、外光オートでも使用できます。

●絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、充電完了後シャッター速度が1/30秒に固定されます。

ストロボ機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度（1/30秒）に自動的に切り替わる。	○	○	○	○
表示パネルとファインダー内でオートチェックができる。	○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○ 注1	
マニュアル露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○
後幕シンクロ撮影ができる。注2	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。注2	○			

TYPE A： AF540FGZ、AF500FTZ注3、AF330FTZ、AF360FGZ
TYPE B： AF400FTZ、AF240FT
TYPE C： AF400T、AF280T、AF200T、AF200SA
TYPE D： AF200S、AF160、AF140

注1： AF200SAは不可。
注2： シャッター速度は1/15秒以下となります。
注3： マルチストロボ、スレーブ機能が働きます。

その他のストロボを使用した場合

●他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。
●スタジオ用の大型ストロボでは、極性が逆になっている物があります。このタイプでは、67Ⅱと組み合わせてもストロボが発光しません。詳しくは、ストロボメーカーにご相談ください。また、大型ストロボでは後幕によるケラレを防ぐため、同調速度より一段低いシャッター速度での使用をお勧めします。
●カメラのXシンクロソケットのみにコードを接続した場合は、連動機能は働きません。

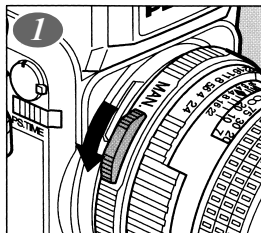
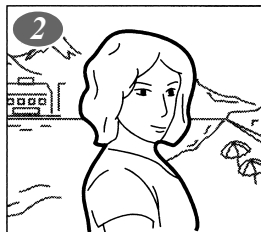
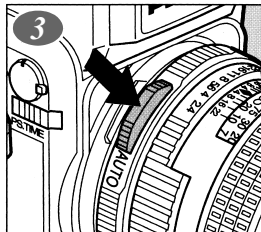
低速シンクロについて

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに写せます。

- 1 の操作は撮影前のどの時点で行なっても結構です。
- 低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。

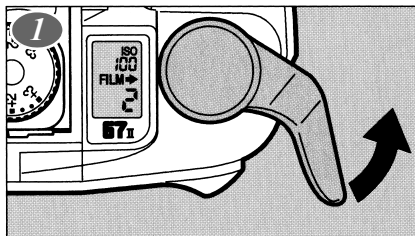
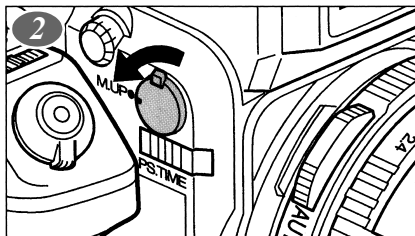
1. 露出モードをマニュアル露出にします。
2. ストロボの電源を入れます。
3. 適正露出になるようなシャッター速度［1/30秒以下の低速］と絞りを選んでください。
4. 撮影します。

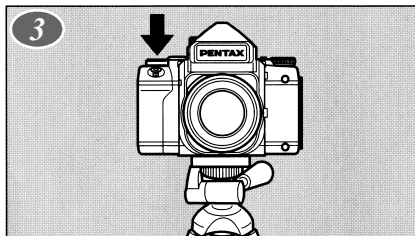
被写界深度の確認方法

1 レンズの自動絞り解除レバーを引き起こすようにしてMANの文字が見える位置にします。

2 この位置では、実際に設定している絞り値まで絞られますので、ファインダー内で深度の確認ができます。

3 元に戻すには、自動絞り解除レバーを軽く押してください。

- 実際にピントの合う範囲とファインダーで見える深度範囲には多少差がありますのでご注意ください。
- 自動絞り解除レバーがMANの見える位置になっていると分割測光を選択しても中央重点測光になります。

ミラーアップについて

撮影前に予めミラーを上げておくことで、ミラーの振動を少なくして、カメラぶれの影響を軽減できます。

- ミラーアップを行なうと、自動的にメモリーロックが働き、露出が固定されます。
- 巻き上げをした後でないと、ミラーアップはできません。
- ミラーアップはセット後に解除することはできません。セット後にミラーアップの必要がなくなった場合、暗い所でシャッターを切り、多重露出の操作を行なってください。
- 電池がなかったり、消耗していると、この機能は働きません。また長時間ミラーアップを続けますと、電池が早く消耗してしまいます。

1 フィルムを巻き上げます。

2 ミラーアップレバーを図の方向に回すと、「カチッ」と音がしてミラーが上がります。

3 撮影します。

タイム露出（パワーセービングタイム）について

パワーセービングタイム時はほとんど電池が消耗しませんので、夜景や天体撮影などで、長時間シャッターを開き続ける必要があるときに使用します。

1 レンズの絞りリングで絞り値を合わせます。

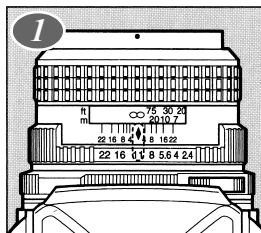
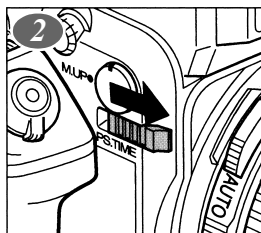
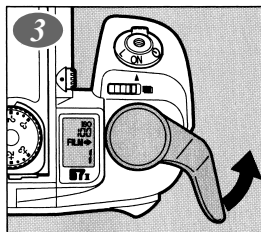
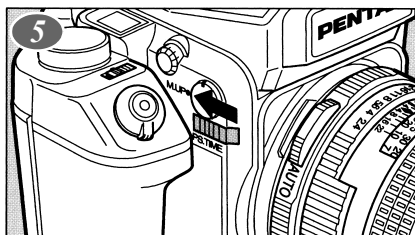
2 タイム露出レバーを図の方向に動かします。

3 フィルムを巻き上げます。

- タイム露出レバーのセットはフィルムを巻き上げた後でも行えます。
- 電池がなかったり、消耗すると、この機能は働きません。

4

シャッターボタンを押すと指を放してもシャッターが開いたままになります。

5

タイム露出レバーを元の位置に戻すとシャッターが閉じて、タイム露出が終了します。

- シャッターダイヤルはどの位置でもかまいませんが、タイム露出レバーを元の位置に戻してもダイヤルでセットした時間が経過しないとシャッターは閉じません。
- ミラーアップとの組み合わせも可能です。

専用アクセサリー［別売］について

このカメラには、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、各サービス窓口にお問い合わせください。

●ケーブルレリーズ30/50
レリーズネジ穴のあるカメラに使えるレリーズコード。

●67マグニファイヤー
ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。

●67正像アングルファインダー
ファインダーを見る角度を90゜間隔に変えることができるアクセサリー。

●フィルター
スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。

●オートストロボAF540FGZ
ガイドナンバーの最大値が54（ISO100・m）のオートストロボ。スレーブ機能や光量比制御モード、外光オート、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

●オートストロボAF360FGZ
ガイドナンバーが最大36（ISO100・m）のオートストロボ。スレーブ機能や光量比制御モード、外光オート、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

●ホットシューグリップ67Ⅱ
AF500FTZ・AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZなどのクリップオンタイプのストロボをカメラから離して使うときのアクセサリー。

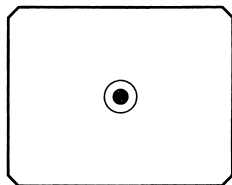
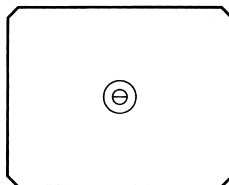
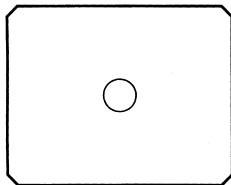
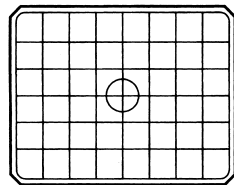
●ホットシューアダプターFG、延長コードF5P、オフカメラシューアダプターF
ストロボをカメラから離して使うときのアクセサリー。

●67AF400Tブラケット、AF400Tブラケット67Ⅱ
AF400Tを67や67Ⅱに付けるためのアクセサリー。

●クイックシュー
カメラと三脚の迅速な着脱を可能にするアクセサリー。

●交換フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンには、標準系（BA-61、BE-60、BB-61、BG-60）と望遠系（BA-81、BE-80、BB-81、BG-80）、合わせて8種類が用意されております。69ページにレンズ別の適合表がありますので詳しくはそちらをご覧ください。交換方法については、スクリーンの使用説明書をご覧ください。

BA-61、BA-81（マイクロプリズムマット）
マイクロプリズム付き

BB-61、BB-81（スプリットイメージマット）
スプリットイメージ付き

BE-60、BE-80（全面マット）
画面のどの部分でもピント合わせができます。

BG-60、BG-80（方眼マット）
構図設定用

● BA-61、BB-61、BE-60、BG-60は、ほとんどのレンズに使用できる一般的なスクリーンです。BA-81、BB-81、BE-80、BG-80は非常に明るいスクリーンですから望遠や開放F値の暗いレンズにご使用いただくと、ピントが合わせやすくなります。ただし、絞り込み測光では露出に多少誤差を生じることがあります。また、リアコンバーターを使用すると露出が多少オーバーになることがあります。

	BA-61	BB-61	BE-60	BG-60	BA-81	BB-81	BE-80	BG-80
smc PENTAX67 フィッシュアイ35mmF4.5	○	○	○	○	△	△	△	△
smc PENTAX67 45mmF4	○	○	○	○	△	△	△	△
smc PENTAX67 55mmF4	○	○	○	○	△	△	△	△
smc PENTAX67 75mmF4.5	○	○	○	○	△	△	△	△
smc PENTAX67 90mmF2.8	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 105mmF2.4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 165mmF2.8	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 200mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 300mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAXM*67 400mmF4 ED（IF）	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 500mmF5.6	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
smcタクマー 67 600mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smcタクマー 67 800mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAXM*67 800mmF6.7 ED	▲	▲	○	○	▲	▲	◎	◎
smcレフレックスタクマー 67 1000mmF8	▲	▲	○	○	▲	▲	◎	◎
smc PENTAX67 マクロ100mmF4	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
smc PENTAX67 マクロ135mmF4	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
smc PENTAX67 シフト75mmF4.5	▲	▲	○	○	▲	▲	△	△
smc PENTAX67 ソフト120mmF3.5	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67LS 165mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 55-100mmF4.5	○	○	○	○	△	△	△	△

◎：特に使用に適すもの
○：使用に適すもの
△：ファインダー周辺が暗くなるもの
▲：スプリット、マイクロプリズムにかげりがでるもの

注意
望遠系スクリーンは、非常に明るいスクリーンとなっていますので、開放F値の暗いレンズにおいてもピント合わせが行いやすくなっています。ただし、露出に多少誤差が生じることがあります。

アクセサリーの注意

●AE ペンタプリズムファインダー67Ⅱ、ペンタプリズムファインダー67Ⅱとも、マグニファイヤーあるいはアイカップを併用する場合、ファインダー接眼部のゴムリングを外してお使いください。ゴムリングを外した接眼部はあまり強く締めすぎると、取り外しにくくなることがあります。外れない場合、ストラップの裏側（PENTAXの文字がない面）で接眼部の枠を押さえて回転させると、取り外しやすくなります。

●一般の偏光フィルターを使用すると露出の精度が不安定になるおそれがあるため、円偏光フィルターの使用をおすすめします。

●絞り優先でオート接写リングを使用する場合、必ず絞りを絞り込んでから撮影してください。露出が合わなくなります。

リアコンバーターについて

●リアコンバーターと望遠系スクリーンを併用した場合、露出が多少オーバーになることがあります。

オートベローズについて

●下図のリング（接写リング外爪1号）が付属されていないオートベローズには、「AEペンタプリズムファインダー67Ⅱ」を付けた67Ⅱは取り付けられません。別売りの「接写リング外爪1号」と「スケール67Ⅱ」をご使用ください。

No.1

絞りとシャッター速度の効果

写したい物［被写体］の適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、写したい物が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長くなるため、もし、このとき写したい物が動いていれば、当然写したい物がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある物でも動きを止めて写すことができます。また、写したい物が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速のシャッター速度で写すと動感のある写真になります。

高速シャッター

低速シャッター

絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときの光束［光の太さ］を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のボケが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲［被写界深度］が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広くなります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のボケが大きくなるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントを合わせることができます。

小絞り側

開放絞り側

改造の受付について

下記の4項目は、巻末に記載のサービス窓口にご用命頂ければ改造（有料）を承ります。
（1）～（3）は、複数項目の改造であっても、同時にご依頼頂ければ料金は同じです。（4）は別料金となります。
詳しくは、サービス窓口にお問い合わせください。

（1）シャッター速度の0.5段階（0.5EV）改造

マニュアル露出時に設定されているシャッター速度に対して、±0.5段階の範囲でシャッター速度を設定できます。

（2）測光タイマー時間変更改造

測光タイマーの時間を5・10・20・30秒のいずれかに変更できます。

（3）ファインダー内への設定絞り値の表示改造

レンズの開放絞り値を入力すると、設定絞り値を表示させることができます。

（4）横吊り用ストラップ金具取り付け改造

カメラを横向きに吊り下げられるようにします。

改造時の注意事項

- 項目（3）の改造で、ファインダー内に絞り値が表示されているときは、フィルム枚数は表示されません。
- 項目（3）で、開放測光に対応していないレンズやアクセサリーでは、絞り値は表示できません。
- 項目（3）で、レンズで設定した絞りと、表示されている絞り値は必ずしも一致しません。

こんなときは？

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症　状	原　因	処　置	参照ページ
シャッターが切れない。	フィルムの規定枚数を撮り終えている。	フィルムを取り出してください。	30ページ
	電源が入っていない。	電源を入れてください。	15ページ
	バッテリー警告が出ている。	電池を交換してください。	13ページ
	セルフタイマーになっている。	セルフタイマーを解除してください。	42ページ
	フィルムを巻き上げていない。	フィルムを巻き上げてください。	40ページ
表示パネルに表示が出ない。	電源が切れている。	電源を入れてください。	15ページ
	電池が入っていない。	電池を入れてください。	13ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	13ページ
	電池が完全に消耗している。	電池を交換してください。	13ページ
ピントが悪い。	フィルムの120/220の切り替えが正しくない。	圧板部の120/220の切り替えを正しく行ってください。	24ページ
巻き上げが重い。	120フィルム使用で、120/220の切り替えを220にしていませんか。	圧板部の120/220の切り替えを正しく行ってください。	24ページ
フィルムの最初や最後の部分が切れてしまった。	フィルムのスタート位置がずれていませんか。	フィルムのスタート位置を正しく合わせてください。	24ページ
ファインダーがはっきり見えない。	視度が合っていない。	視度調整を正しく行ってください。	32ページ

症　状	原　因	処　置	参照ページ
フィルムを入れる際、巻き上げてもスプールが回らない。	電池が入っていない。	電池を入れてください。	26ページ

エラー表示について

カメラの作動に異常が発生した場合、「E-13」のように「E」の後に2桁の数字で表されるエラー表示が出ます。この表示が出た状態では、シャッターが切れなくなりますので、下記のような処置をしてください。

1の位に「1」か「3」が表示された場合	10の位の表示に関係なくこの表示が出たときは、サービス窓口にご相談ください。
10の位に「1」、「2」、「3」のいずれかが表示された場合	フィルムが入っている場合は、フィルムの最後まで空送りして、フィルムを取り出してください。その後、フィルムのない状態で空シャッターを切り、エラー表示が消えればそのままお使いいただけますが、念のためサービス窓口での点検をお勧めします。再び表示が出た場合は、サービス窓口にご相談ください。フィルムが入っていない場合は、裏ぶたの開閉で表示が消えればそのままお使いいただけます。
「PErr」が表示された場合	ファインダーの着脱を何度かして、エラー表示が消えればそのままお使いいただけます。

静電気などの影響により、希にカメラが正しい作動をしなくなることがあります。このような場合には、一旦電池を入れ直してみてください。

主な仕様

型式 —— 6×7判一眼レフカメラ

画面サイズ —— 55×70mm

使用フィルム —— 120ロールフィルム（10枚撮り）、220ロールフィルム（21枚撮り）、ISO 6～6400

露出モード —— 絞り優先自動露出、マニュアル露出、バルブ

シャッター —— 電子制御式布幕横走りフォーカルプレーンシャッター、オートシャッター＝1/1000秒～30秒［無段階］、マニュアルシャッター＝1/1000秒～4秒、バルブ、X（1/30秒）、タイム露出（パワーセービングタイム）、電源切りでシャッターロック

レンズマウント —— ペンタックス専用ダブルバヨネットマウント［内爪、外爪］

ファインダー —— 交換式、交換式ナチュラルブライトマットフォーカシングスクリーン、視野率90％、倍率0.75倍［105mm・∞・－1m^{-1}］、視度＝－2.5～＋1.5m^{-1}（毎メートル）

ファインダー内表示 —— シャッター速度表示、絞り表示、＝ストロボ情報、バーグラフ＝露出補正値、マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、＝露出補正、＝メモリーロック、フィルム枚数、＝分割測光、＝中央重点測光、＝スポット測光

LCDパネル表示 —— ＝電池消耗、フィルム感度、ISO、フィルム枚数、＝巻き上げお勧め、＝ストロボ情報

セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒［電子音］、作動後解除可能
ミラー	クイックリターンミラー、ミラーアップ付き
巻き上げ	レバー式［巻き上げ角190°、予備角7°］
露出計・測光範囲	TTL開放6分割測光、測光範囲EV2～21（105mmF2.4、ISO100、分割測光）、中央重点・スポット測光可能
露出補正	±3EV［1/3EVごと設定可能］
多重露出	多重露出レバーによるセット
メモリーロック	ボタン式（タイマー式20秒）シャッターボタン半押しで継続
シンクロ	5Pシンクロソケット・X接点専用ストロボ接点付き　専用ストロボ連動同調スピード1/30秒、ISO連動範囲＝25～800
電源	3Vリチウム電池（CR123A）2個
電池消耗警告	バッテリーマーク点灯［点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯］
大きさ・質量［重さ］	185.5mm［幅］×108.5mm［高］×92mm［厚］　1210g　ボディーのみ 185.5mm［幅］×151mm［高］×106mm［厚］　1660g　AEペンタプリズムファインダー67II付き ［いずれもレンズ・電池はなし］
付属品	ボディーマウントキャップ、ファインダーキャップ、ターミナルキャップ4P、5Pキャップ、カメラストラップG

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様ご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行なって、お客様ご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。（全国一律料金）

電話受付
TEL　0120-97-0405（フリーダイヤル）
（受付時間：平日 8：00～21：00　土・日・祝日・年末年始 9：00～18：00）

（宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ）

ペンタックス イメージング・システム事業部　東京サービスセンター
〒174-0041　東京都板橋区舟渡1-12-11　ヘリオスIIビル3F
TEL 03-3960-5140　FAX 03-3960-5147
営業時間：9：00～17：30（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス イメージング・システム事業部　大阪サービスセンター
〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612
営業時間：9：00～17：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス　　**http://www.pentax.jp/**

[弊社製品に関するお問い合わせ]
お客様相談センター　　**ナビダイヤル　0570-001323**
（市内通話料でご利用いただけます。）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、下記の電話番号をご利用ください。
TEL 03-3960-5705（代）　FAX 03-3960-4976
営業時間　9：00～18：00（平日）
　　　　　10：00～17：00（土・日・祝日）
休業日　年末年始およびビル点検日

大阪サービスセンター
TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612
〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間　9：00～17：00
休業日　土・日・祝日および弊社休業日

[ショールーム・写真展・修理受付]
ペンタックスフォーラム
TEL 03-3348-2941（代）　FAX 03-3345-8076

〒163-0690 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB（中地下1階）
営業時間　10：30～18：30
休業日　毎週火曜日、年末年始およびビル点検日

ＨＯＹＡ株式会社
ペンタックス イメージング・システム事業部
〒174-8639 東京都板橋区前野町2-35-7

☆この説明書には再生紙を使用しています。
☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

56451
H12-201101
Printed in Japan